

1. ポテンシャルと力

解答) 位置 r のポテンシャルが $U(r)$ と与えられた場合, そのポテンシャル中にある質点には

$$F = -\nabla U(r)$$

で表される力が作用する. 座標系が xyz 直交座標系の場合, ∇ (ナブラ) 演算子 は, x, y, z 軸の単位ベクトル i, j, k を用いて,

$$\nabla = (i \frac{\partial}{\partial x} + j \frac{\partial}{\partial y} + k \frac{\partial}{\partial z})$$

と表される. したがって, 質点に作用する力 F は, 直交座標系で表したポテンシャル $U(r) = U(x, y, z)$ を用いると

$$F = -(i \frac{\partial}{\partial x} + j \frac{\partial}{\partial y} + k \frac{\partial}{\partial z})U(x, y, z) = \left(-\frac{\partial U(x, y, z)}{\partial x}\right)i + \left(-\frac{\partial U(x, y, z)}{\partial y}\right)j + \left(-\frac{\partial U(x, y, z)}{\partial z}\right)k$$

と表される.

1) の場合, 上記の関係で $U(x, y, z) = U(x) = Ax^2 - Bx^3$ と考えると

$$-\frac{\partial U(x, y, z)}{\partial x} = -\frac{\partial (Ax^2 - Bx^3)}{\partial x} = -(2Ax - 3Bx^2), \quad -\frac{\partial U(x, y, z)}{\partial y} = -\frac{\partial (Ax^2 - Bx^3)}{\partial y} = 0, \quad -\frac{\partial U(x, y, z)}{\partial z} = -\frac{\partial (Ax^2 - Bx^3)}{\partial z} = 0$$

であるから, 質点に作用する力 F は,

$$F = -(2Ax - 3Bx^3)i$$

となる.

2) の場合, $U(x, y, z) = U(x, y) = k\sqrt{x^2 + y^2}$ と考えると

$$-\frac{\partial U(x, y, z)}{\partial x} = -\frac{\partial (k\sqrt{x^2 + y^2})}{\partial x} = -\frac{kx}{\sqrt{x^2 + y^2}}, \quad -\frac{\partial U(x, y, z)}{\partial y} = -\frac{\partial (k\sqrt{x^2 + y^2})}{\partial y} = -\frac{ky}{\sqrt{x^2 + y^2}}, \quad -\frac{\partial U(x, y, z)}{\partial z} = -\frac{\partial (k\sqrt{x^2 + y^2})}{\partial z} = 0$$

であるから, 質点に作用する力 \vec{F} は,

$$F = -k \frac{x}{\sqrt{x^2 + y^2}} i - k \frac{y}{\sqrt{x^2 + y^2}} j = -\frac{k(xi + yj)}{\sqrt{x^2 + y^2}}$$

と表される.

注意: 2) の場合, 位置ベクトル $r = xi + yj$ を用いて表すと,

$$F = -k \frac{r}{|r|}$$

と表され, その力の大きさは $|F| = k$ であるから**一定**で, 向きは $-r/|r|$, すなわち**動径方向原点へ向かう向き**の力であることが分かる.

問2. 問1と同様にして, 位置 r のポテンシャルが $U(r)$ と与えられた場合, そのポテンシャル中にある質点には

$$F = -\nabla U(r)$$

で表される力が作用する. 座標系が xyz 直交座標系の場合, 質点に作用する力 F は, 直交座標系で表したポテンシャル $U(r) = U(x, y, z)$ を用いると

$$F = -(i \frac{\partial}{\partial x} + j \frac{\partial}{\partial y} + k \frac{\partial}{\partial z})U(x, y, z) = \left(-\frac{\partial U(x, y, z)}{\partial x}\right)i + \left(-\frac{\partial U(x, y, z)}{\partial y}\right)j + \left(-\frac{\partial U(x, y, z)}{\partial z}\right)k$$

と表される. この問題の場合, ポテンシャルは $U(x, y, z) = -\frac{C}{\sqrt{x^2 + y^2 + z^2}}$ と与えられているので,

$$\begin{aligned}
-\frac{\partial U(x,y,z)}{\partial x} &= -\frac{\partial}{\partial x} \left(-\frac{C}{\sqrt{x^2+y^2+z^2}} \right) = -C \frac{x}{(x^2+y^2+z^2)^{3/2}} = -C \frac{x}{r^3}, \\
-\frac{\partial U(x,y,z)}{\partial y} &= -\frac{\partial}{\partial y} \left(-\frac{C}{\sqrt{x^2+y^2+z^2}} \right) = -C \frac{y}{(x^2+y^2+z^2)^{3/2}} = -C \frac{y}{r^3}, \\
-\frac{\partial U(x,y,z)}{\partial z} &= -\frac{\partial}{\partial z} \left(-\frac{C}{\sqrt{x^2+y^2+z^2}} \right) = -C \frac{z}{(x^2+y^2+z^2)^{3/2}} = -C \frac{z}{r^3}
\end{aligned}$$

であるから、このポテンシャルの元になっている力 \vec{F} は

$$\begin{aligned}
F &= -\frac{C}{(x^2+y^2+z^2)^{3/2}}(xi + yj + zk) = \left(-\frac{Cx}{(x^2+y^2+z^2)^{3/2}} \right)i + \left(-\frac{Cy}{(x^2+y^2+z^2)^{3/2}} \right)j + \left(-\frac{Cz}{(x^2+y^2+z^2)^{3/2}} \right)k \\
&= -\frac{C}{r^3}(xi + yj + zk) = -\frac{C}{r^2} \frac{r}{r}
\end{aligned}$$

となる。したがって、力 F の x , y , z 成分 (F_x, F_y, F_z) は

$$F_x = -\frac{Cx}{(x^2+y^2+z^2)^{3/2}}, \quad F_y = -\frac{Cy}{(x^2+y^2+z^2)^{3/2}}, \quad F_z = -\frac{Cz}{(x^2+y^2+z^2)^{3/2}}$$

となり、力の大きさ $|F|$ は

$$|F| = \left| -\frac{C}{r^2} \frac{r}{r} \right| = \frac{C}{r^2} \left| \frac{r}{r} \right| = \frac{C}{r^2}$$

と求まる。

2. 力学的エネルギー、力学的エネルギー保存則

問1.

1) この問題では、ばねの力は、大きさがばねの伸び x に比例し、向きは原点 O に向かう向き、またばね定数が k と与えられているから、

$$F = -kx$$

となる。

2) ポテンシャルの定義から、基準点を原点 O すなわち $x = 0$ とした時、力 $F = -kx$ に対する、位置 x でのポテンシャル $U(x)$ は

$$U(x) = -\int_0^x (-kx) dx$$

となるので、積分を実行すると、

$$U(x) = \frac{1}{2}kx^2$$

となる。

3) 原点 O を基準点としたときの P_1 点 ($x = A$) でのポテンシャル $U(A)$ は $U(A) = \frac{1}{2}kA^2$ 。またその点での速度は 0 であるので、運動エネルギー $\frac{1}{2}mv^2$ は $\frac{1}{2}mv^2 = \frac{1}{2}m0^2 = 0$ 。力学的エネルギー E は

$E = \frac{1}{2}mv^2 + U(x)$ であるから、 P_1 点 ($x = A$) での力学的エネルギー E は

$$E = 0 + U(A) = \frac{1}{2}kA^2$$

である。

4) 位置 $x(t)$ でのポテンシャル $U(x)$ は $U(x) = \frac{1}{2}k(x(t))^2$ 。速度 $v(t)$ の運動エネルギーは $\frac{1}{2}m(v(t))^2$ 。力学的エネルギー保存の法則は、これらの和が一定であるということ。したがって、 P_1 点の力学的エネルギーに等しい。

よって、

$$\frac{1}{2}m(v(t))^2 + \frac{1}{2}k(x(t))^2 = \frac{1}{2}kA^2$$

となる。

5) ばねの伸びが $\frac{1}{2}A$ の時の小球の速さを v_1 とすると、 $\frac{1}{2}mv_1^2 + \frac{1}{2}k(\frac{1}{2}A)^2 = \frac{1}{2}kA^2$ 。一方、原点O上では、 $\frac{1}{2}mv_0^2 + \frac{1}{2}k0^2 = \frac{1}{2}kA^2$ という関係が成立。これらを比べると、 $|v_1| = \frac{\sqrt{3}}{2}|v_0|$ となるので、 $\frac{\sqrt{3}}{2}$ 倍である。

6) 位置 $x_{1/2}$ での力学的エネルギー保存則は $\frac{1}{2}m(0.5v_0)^2 + \frac{1}{2}k(x_{1/2})^2 = \frac{1}{2}kA^2$ 。原点O上での保存則 $\frac{1}{2}mv_0^2 = \frac{1}{2}kA^2$ と比べると、 $x_{1/2} = \pm \frac{\sqrt{3}}{2}A$ (原点Oの左右に2箇所)となる。

3. 運動方程式の解と力学的エネルギー保存則の関係、ポテンシャル図

問1.

1) ばねの力のみが作用するので、力の総和は $F = F_k = -kx(t)$ と表され、加速度は $a = \frac{d^2}{dt^2}x(t)$ と表されるから、運動方程式は

$$m \frac{d^2x(t)}{dt^2} = -kx(t)$$

となる。

2) 両辺を m で割り、 $w^2 = \sqrt{k/m}$ と置くと、上記の運動方程式は、

$$\frac{d^2x(t)}{dt^2} = -w^2x(t)$$

となる。この微分方程式の一般解は、 $x(t) = x_0 \sin(wt + f)$ (x_0, f は積分定数)である。本文によると、時刻 $t = 0$ で $x = A, v = 0$ であった。一般解より、 $v(t) = \frac{d}{dt}x(t) = wx_0 \cos(wt + f)$ だから、一般解に $t = 0$ を代入して、

$$x_0 \sin f = A, wx_0 \cos f = 0$$

の関係式を得るので、 $f = \frac{\pi}{2}$ かつ $x_0 = A$ となる。したがって、この状況に適合する特殊解は

$$x(t) = A \sin(wt + \frac{\pi}{2}) = A \cos(\sqrt{\frac{k}{m}}t), v(t) = A\sqrt{\frac{k}{m}} \sin(\sqrt{\frac{k}{m}}t)$$

となる。

3) 質量 m 、速度 $v(t)$ の質点の運動エネルギー $K(t)$ は $K(t) = \frac{1}{2}mv(t)^2$ と表され、これに2)で求めた速度

$$v(t) = A\sqrt{\frac{k}{m}} \sin(\sqrt{\frac{k}{m}}t)$$

を代入すると、

$$K(t) = \frac{1}{2}m(v(t))^2 = \frac{1}{2}mA^2 \frac{k}{m} \sin^2(\sqrt{\frac{k}{m}}t) = \frac{1}{2}kA^2 \sin^2(\sqrt{\frac{k}{m}}t)$$

となる。

4) バネ定数 k のバネの伸びが $x(t)$ である場合、基準点を原点Oに取れば、その位置エネルギー $U(x)$ は

$$U(x) = \frac{k}{2}x(t)^2$$

と表されるので、これに2)で求めた位置 $x(t) = A \cos(\sqrt{\frac{k}{m}}t)$ を代入すると、

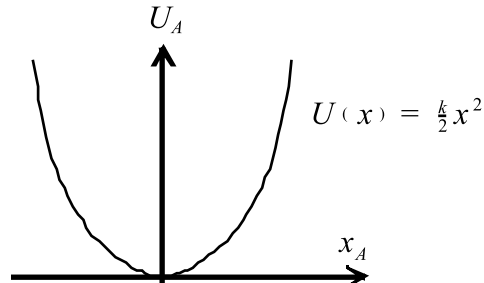
$$U(t) = \frac{k}{2}(x(t))^2 = \frac{k}{2}A^2 \cos^2(\sqrt{\frac{k}{m}}t)$$

となる。

5) 運動エネルギー $K(t)$ とポテンシャル $U(t)$ の和 $K(t) + U(t)$ を3)と4)で求めた結果で表すと

$K(t) + U(t) = \frac{1}{2}kA^2 \sin^2(\sqrt{\frac{k}{m}}t) + \frac{k}{2}A^2 \cos^2(\sqrt{\frac{k}{m}}t) = \frac{1}{2}kA^2 \{\sin^2(\sqrt{\frac{k}{m}}t) + \cos^2(\sqrt{\frac{k}{m}}t)\} = \frac{1}{2}kA^2$ となり、時間 t が変化しても、 $\frac{1}{2}kA^2$ は変化しない。つまり、 $K(t) + U(t) = \frac{1}{2}kA^2$ となって、一定である。

6) $U(x) = \frac{k}{2}x^2$ であるから、放物線となるので、下図の結果となる。



7) 物体は $E - U(x) = K(t) > 0$ を満たす位置 x の範囲で動ける ($K(t) > 0$ なので $v(t) \neq 0$ となり、静止せず動いている) ので、力学的エネルギーが $E = \frac{1}{2}kA^2$ 、ポテンシャルが $U(x) = \frac{k}{2}x^2$ の場合、 $E - U(x) > 0$ を満たす位置 x の範囲は、

$$\frac{1}{2}kA^2 - \frac{k}{2}x^2 > 0, \text{ すなわち } A^2 > x^2 \text{ つまり } -A < x < A$$

となる。図で表すと以下のような関係である。

